

第3章 都市づくりの基本的な考え方

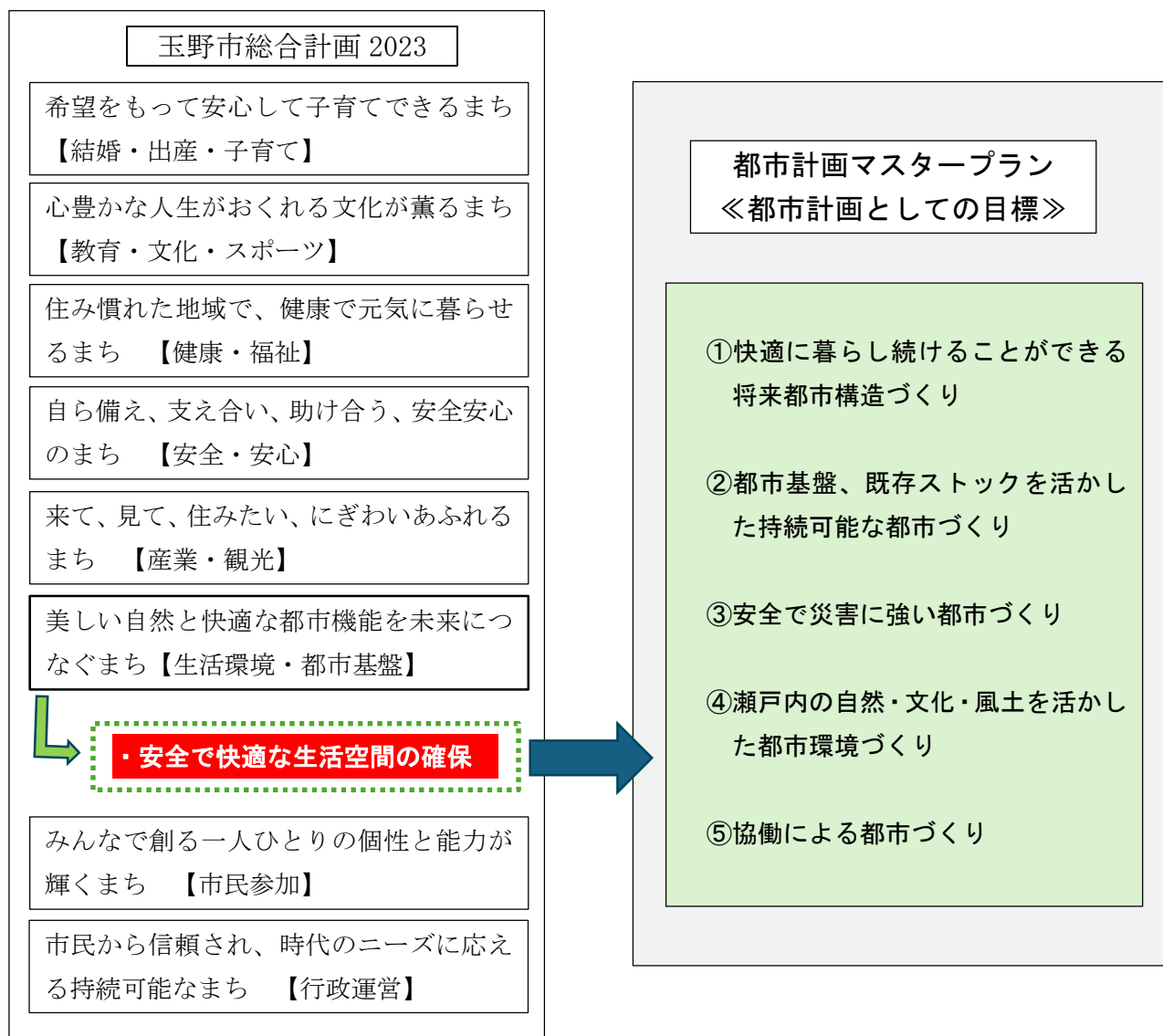
（１）玉野市の将来像

玉野市総合計画 2023 では、玉野市の目指す将来像を“誰もが行ってみたい、住み続けたいまち ～たまので育つ、TAMANO が育つ～”としています。

この将来像を実現するため、都市計画としては、玉野市の課題を踏まえて、「都市機能が充実した良質な生活空間の確保」を将来都市像に加え、下記の5項目の基本目標のもと、まちづくりを進めていきます。

《将来都市像》

誰もが行ってみたい、住み続けたいまち ～たまので育つ、TAMANO が育つ～
・・・都市機能が充実した良質な生活空間の確保・・・



(2) 都市づくりの基本目標

基本目標（１）快適に暮らし続けることができる都市構造づくり

人口減少及び高齢化が進む中、市民の日常生活を支えるサービス施設を維持するため、都市拠点と各コミュニティ拠点が公共交通を軸に連携するコンパクト・プラス・ネットワーク型都市構造の形成により、誰もが多様なニーズに対応する都市サービスを受けることができ、快適に暮らし続けることができる都市構造づくりを目指します。

基本目標（２）都市基盤等、既存ストックを活かした持続可能な都市づくり

港湾や幹線道路等の産業基盤を活かし、製造業をはじめ、商業、農業等の振興を図るとともに、産業と観光の連携等を図り、産業基盤の一層の有効活用の推進を目指します。

さらに、鉄道・バスなどの陸上交通とフェリーや大型客船バースなどの海上交通の結節点という立地条件を活かし、海の玄関口としての交通ターミナル機能の強化を図ります。

また、コンパクト・プラス・ネットワーク型都市づくりの考え方にに基づき、既存の都市施設や都市機能の集積を活かしつつ、利用圏域に応じた施設の再編や適正配置を推進し、持続可能な都市づくりを目指します。

基本目標（３）安全で災害に強い都市づくり

激甚化、頻発化する自然災害に備えて、ハザード情報の一層の普及・啓発を図るとともに、ハザードエリアにおける新たな開発の抑制や住宅、主要公共建築物などの不燃化、耐震化の促進、自然災害に対応できる治山・治水及び津波対策の充実など、甚大な被害を回避、軽減するための事前の防災・減災対策の推進を目指します。

また、有事に備えて、救援物資の輸送、復旧応援等の対応のため広域連携の強化を図るとともに、災害対策本部や救助活動の拠点となる施設及び体制の機能強化、避難路、避難地の確保により災害に強い都市づくりを目指します。

基本目標（４）瀬戸内の自然・文化・風土を活かした都市環境づくり

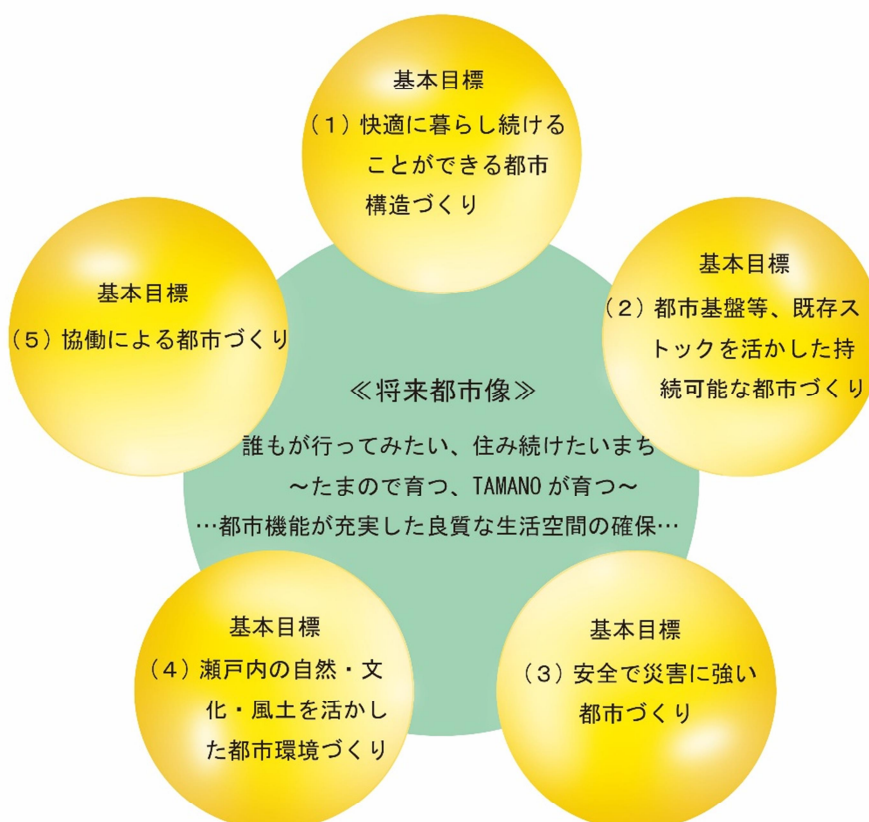
美しい瀬戸内海の自然環境、資源、景観、これと調和する緑豊かな山々の森林、市民に親しまれている海岸を守り育てることを目指します。

また、これらの資源を市民が再認識し、臨海のまちとして個性をはぐくむ環境都市づくりを目指します。

さらに、交通の結節点という地理的条件と恵まれた瀬戸内の資源や産業資源を有効に活用し、活力ある産業、文化をはぐくみ、人々が行き交う活気あるまちの創造を目指します。

基本目標（５）協働による都市づくり

都市づくりにおいて、行政だけでできることには限界があり、市民や企業の果たす役割が重要であるとの認識を共有し、市民や企業と行政がパートナーシップを築き、地域の課題解決やまちの魅力、にぎわいを創出する協働のまちづくりの推進を目指します。



(3) 将来都市構造

都市づくりの基本目標を踏まえて、都市を構成する主要素である「拠点」、「ネットワーク」、「ゾーン」を位置づけ、将来都市構造を設定します。

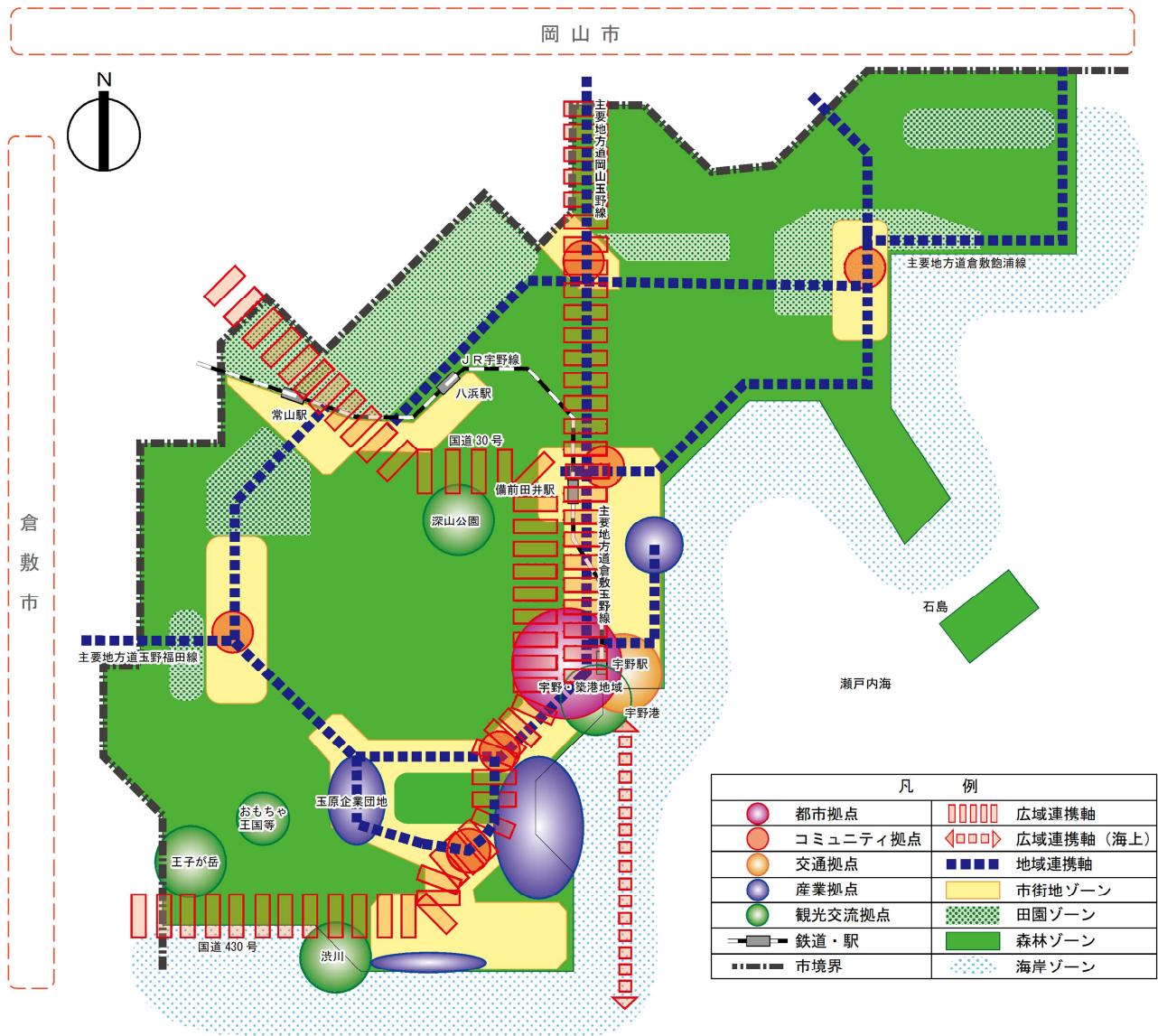


図 将来都市構造図

1) 拠点

①都市拠点

多様で高度な市民ニーズに対応する都市サービスを提供する複合的な都市機能の充実を図り、都市基盤や交通基盤の維持・充実を図ることで、市民の生活を支えるとともに、都市の活性化をけん引する本市の顔となる拠点として位置づけます。

②コミュニティ拠点

都市拠点と公共交通で結ばれ、暮らしやすい生活圏域の形成に不可欠な都市機能を維持するとともに、近隣地域と相互に必要な機能を補完し合う拠点として位置づけます。

③交通拠点

陸・海交通の利便性の向上や結節機能の強化により、自動車交通、鉄道、フェリーによる他都市、他府県との広域交通機能の保全、充実を図る拠点として位置づけます。

④産業拠点

本市の産業振興・経済活性化を支え、就業促進の拠点として位置づけます。

⑤観光交流拠点

インバウンドの促進も視野に、本市の豊かな自然環境や産業、文化、芸術の資源を活かした観光・交流を促進する拠点として位置づけます。

2) ネットワーク

①広域連携軸

行政区域を超えた広域的な交通・物流・交流を支えるネットワークとして、国道 30 号、国道 430 号及び県道 45 号（岡山玉野線）等を「広域連携軸」に位置づけます。

また、宇野港を起点とする航路を、海上の広域連携軸に位置づけます。

②地域連携軸

都市拠点とコミュニティ拠点等をつなぎ、隣接する岡山市、倉敷市とも連絡する県道等を市民の日常生活を支える動線軸として「地域連携軸」に位置づけます。

3) ゾーン

①市街地ゾーン（市街化区域）

居住、商業・業務、教育、文化、医療、福祉、工業など、一定の人口・都市機能が適正に配置されたゾーンを「市街地ゾーン」に位置づけます。

②田園ゾーン（市街化調整区域）

農地が広がり集落地が点在する農業地域については、農業の振興を基本とし、農業との調和を図りつつ集落地等の地域コミュニティの活力の保持や地域産業の活性化を目指すゾーンとして「田園ゾーン」に位置づけます。

③森林ゾーン（市街化調整区域）

瀬戸内海国立公園や本市の中央部を北東から南西に連続する山地については、森林の保全と自然環境を活かしたレクリエーションの場として「森林ゾーン」に位置づけます。

④海岸ゾーン

瀬戸内海の多島美という景観や海水浴場等のレクリエーション施設に恵まれている沿岸、及び海の玄関口である宇野港周辺については、身近な自然とふれあい、また海辺の祭り等を活用して海と親しむ場として「海岸ゾーン」に位置づけます。